

推薦の言葉

包括的歯科治療の重要性は、過去から現在に至るまで多くの方々によって語られてきた。過去においては「一口腔一単位の治療」と提唱され、その後、治療分野の高度化により、専門医らによるチームアプローチ、すなわち「インターディシプリナリー・トリートメント」の必要性が語られ、とくに矯正治療とのコラボレーションは不可欠なものといえよう。しかしながら、専門医制度が確立している欧米とは異なり、医療制度の問題によって日本でのチームアプローチは容易なものとはいえないのが現状であろう。チームアプローチを行ううえで重要なことは、チーム全員における情報の共有化、治療ゴールの共有化、そして、お互いの分野における知識の共有化が必要であるといえるが、現状ではなかなか難しい問題といえよう。

本書の著者である田ヶ原昭弘先生とは、氏が卒業して間もないころ、私の診療室を見学に来られてから30年近くになる知り合いである。若くして勉強熱心で、アイデアマンであり、歯周治療から矯正治療、そしてインプラント治療までをこなすマルチプレーヤーである。長期間にわたりご自身で包括的歯科治療を実践してきたご経験から、インターディシプリナリー・トリートメントの難しさと問題点を体験され、咬合平面等の三次元診断のための「TOPアナライザー」を考案・開発され、現在はCTによる三次元的矯正診断における咬合器との関連を確立されてきている。おそらくこの試みは、CTによる新たな三次元セファログラムによる矯正診断への一里塚になるかもしれない。

最適なインターディシプリナリー・トリートメントを行ううえで、各分野の専門知識を最低限理解することは不可欠であるが、多くの書籍を読破することはなかなか困難である。本書では、包括的歯科治療の概要から診査・診断・治療計画、そして各分野における治療の流れ等を、数多くの臨床例を挙げながら包括的にかつわかりやすく解説されており、総合的な知識を習得するうえで非常に有効な書籍であると思う。

本書は、チームアプローチを担う各専門分野の方々の情報の共有化、治療ゴールの共有化、そしてお互いの分野における知識の共有化を行ううえで有用であり、必携の書といえるだろう。また、これから包括的歯科治療を実践していこうと思っておられる若手の先生方にとってもバイブルとなり得る書籍と考え、推薦したい必読の書籍である。

東京都港区開業
寺西邦彦